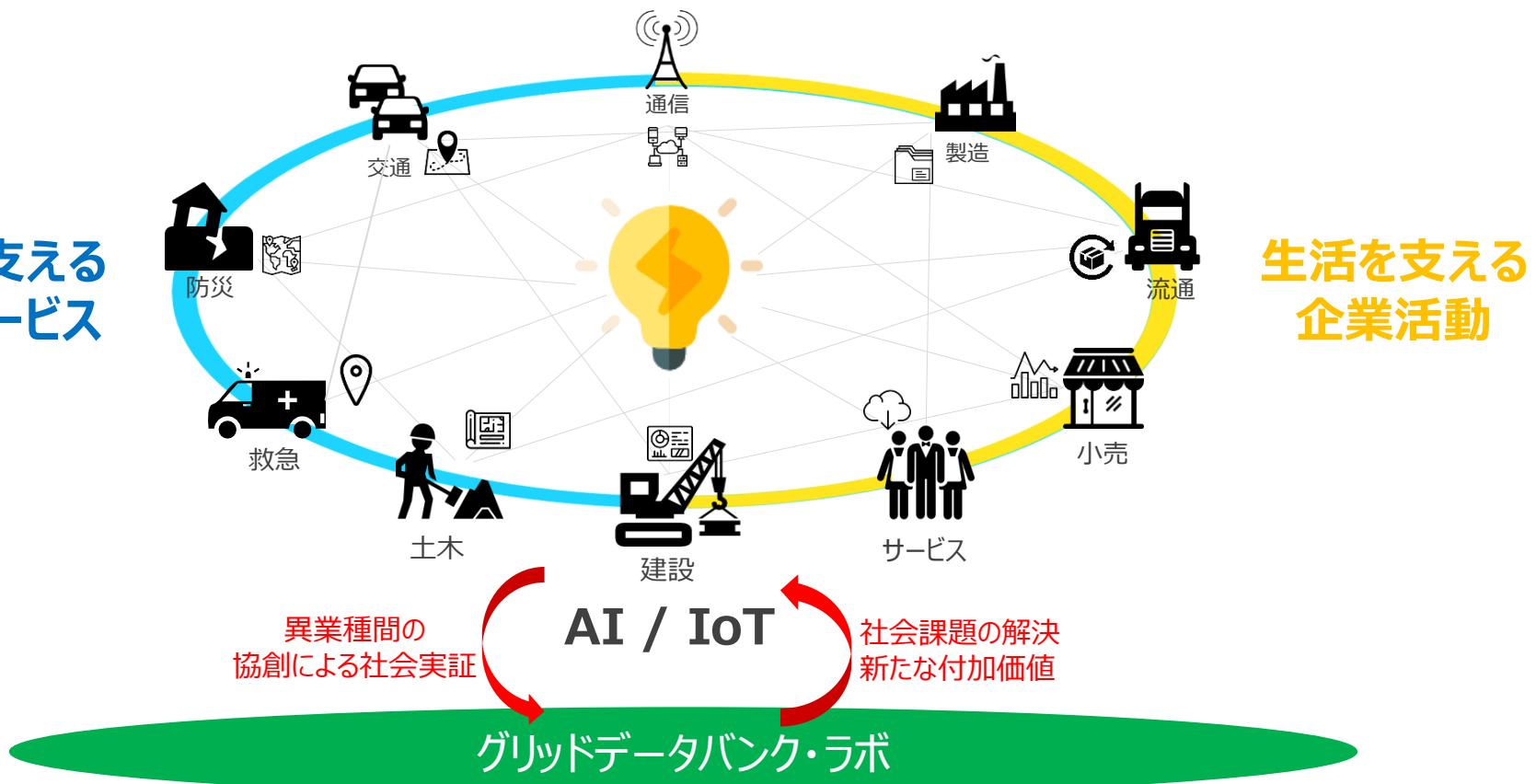


はじめに

グリッドデータバンク・ラボ有限責任事業組合では、Utility3.0の世界が間近に迫るなか、異業種データを掛け合せることで様々な社会課題の解決や、新たなビジネス価値の創出を目指していきます。

社会を支える
公共サービス

生活を支える
企業活動



Icons made by Freepik from www.flaticon.com

オフィス兼ラボの開設について

データ活用のタネを生む「気づき」「発見」がある場所として、オープンイノベーション環境を備えたラボ兼オフィスの開設を準備中です。



安全・安心にデータを活用し、
社会に対して新たな付加価値を創出

提供データについて(統計処理)

グリッドデータバンク・ラボ有限責任事業組合が扱うデータは、個人情報がわからない状態まで統計処理した電力データを取扱います。

電力データ

- ・位置情報
- ・30分電力量



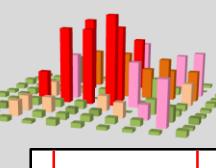
□□市○丁目××

統計処理

- ・位置情報の丁目単位化・エリアメッシュコード等
- ・30分電力量の集約データ



□□市○丁目
(N = △△)



N = △△世帯

出展：2018年9月18日第11回「電力・ガス基本政策小委員会」資料 6

電力データ統計の特徴

電力データ統計は従来の統計情報で得られなかつ情報活用することができます。

街の状態を面的かつ正確に把握できる

“街の変化”をタイムリーに把握できる



- 住民の転居
- 新築の増加
- 暮らし方の変化

5年に一度の国勢調査と比べ、統計の精度が高い

一般的な住宅エリア
(北区赤羽エリア)

+ 9 %

のかい離

学生が多いエリア
(早稲田エリア)

+ 30 %

のかい離

リアルタイムでの世帯数は過去の国勢調査とかい離しています。

2018年10月末時点での東京電力パワーグリッド管内のスマートメーター設置台数は約1,900万台
2020年度末までに約2,900万台を設置予定

統計処理された電力データ活用例

社会を支える公共サービス

防災計画



- ・迅速な災害エリア・災害復旧状況の把握
- ・円滑な避難ルート最適化
- ・避難状況を踏まえた最適な物資調達

都市計画・防犯対策



- ・住民の生活実態とその変化を踏まえた市街地活性化計画の立案
- ・空き家・空室の把握による詐欺への対策

生活を支える企業活動

商圈分析



- ・店舗周辺の生活動向を把握した売上予測の精度向上（出店計画への活用）

販売価格検討高度化



- ・ダイナミックプライシング等の需給状況に応じた価格変動化への対応